

いしかわスクエア



井上 道義の 未来だった今より

♪ 富士の裾野

今年の正月は富士の裾野で愛犬と泊まれるホテルを中心に、妻と過ごした。年末の笹子トンネル事故は富士山噴火の予兆じゃないかとか、田貫湖に映る逆さ富士は素晴らしいが近くから見ると大崩壊しそうとか最近の世相のようにあら探しをしたり、はたまた、以前上空から落ちてちてからやめているハンググライダーのさかんな朝霧高原こそ日本一の景色だと言って高原ミルクで乾杯したり。

でもどうなんだ、我が国は全国津々浦々に行き渡っているコンサートホールに代表されるように、何でも富士のすそ野のように平均値を広げることは大したもんだが、北アルプスの槍ヶ岳が富士より高かったり、いっそマッターホルンのように尖った男性的な岩山が駿河の国に聳えていたりしたら、そんな気風も違っていたのではないかと想像もした。先端技術や尖った芸術にもっと才能が集まって「箱

なぞなくても中身で勝負」としのぎを削り、技を持つ者に資本投下することに人々がもっと勇気を持てたのではないかと。

遠くから眺める富士のような立派さ、優美さも近づけばあらも見えるし問題も山積だ。しかし人々があこがれを感じ、尊敬を持つ存在に興味本位で近づき自分のレベルに引きずり降ろすことは恥ずかしいこと。僕もスカトロジー好きのモーツァルト、隣人とうまく付き合えなかったベートーベン、実は手も大きく男らしかったらしいショパン、女好きだったショスタコーピチを知り、内心安心したことを思い返した。山に登り山に近づぐことは簡単だが、その高さを持つ存在へ自分を育てなくては！ しかし遠くで見る霊峰富士、それも冬の姿は美しく、いつ見ても感激する自分が横にいるのだワン……。

(オーケストラ・アンサンブル) 金沢音楽監督



支援員の李さんが見守る中、受験勉強をする来館者一能美市倉重町の能美市立辰口図書館

海難事故の数 4隻増の31隻

昨年、金沢海保など

海の上での事故について、金沢、七尾両海上保安部が昨年の結果をまとめた。事故にあった船舶数は計31隻(前年比4隻増)で、事故による死者・行方不明者は3人。遊泳中などの事故にあったのは45人(前年比17人増)で、死者・行方不明者は19人(同11人増)だった。金沢海保管内では、海難事故にあった船舶数は前年と同じ9隻だったが、船の

事故で1人が亡くなった。遊泳中に沖に流されるなどの事故は24人で、そのうち死者・行方不明者は5人だった。海の流れが沖へと強くなる離岸流が原因とみられる。七尾海保と能登海上保安部の管内では、海難事故が22隻あった。珠洲市沖では昨年4月、刺し網漁船が中国籍のコンテナ船と衝突し、1人が死亡、1人が行方不明となった。遊泳中などの事故は昨年より13人増えて21人となり、そのうち死亡・行方不明は14人だった。(小川泰)

市内の観光イベントや見どころを紹介するコーナーも設けた。(長田豊)

